



姫の松原

小値賀島のほぼ中央にある、約400~500m続く松並木で、「日本の名松百選」と「新・日本の街路樹百景」に選定されています。途中には歴史のある志々伎神社があり、314cmの中世中国船の停泊に使われていた礎石が安置されています。



地ノ神島神社

遣唐使の航海安全を祈願し700年代に造られたといわれている神社。石段を下った岩場に鳥居が建ち、海を通る船舶を見守っています。対岸の野崎島にある沖ノ神嶋神社とは対(分祀)になっており、両社は、海を隔て互いに向かい合うように立っています。



小値賀町歴史民俗資料館

江戸時代に捕鯨などで栄えた小田家の築約250年の屋敷を活用した資料館。小田家の事跡が紹介されているほか、町内の遺跡から出土した考古資料、中世の中国との貿易に関する資料、野崎島のキリシタン資料などが展示されています。



赤浜海岸

神秘的な赤い砂浜として度々テレビなどにも取り上げられる話題のビーチ。砂や砂利の赤色は火山礫によるもので、北部の五両ダキと同様、小値賀島が火山でできた島であることを示しています。



苗吹の町並み

小値賀町の景観は、「小値賀諸島の文化的景観」として国の重要文化的景観に選ばれており、苗吹郷には、江戸時代に捕鯨や海産物取引などの事業で栄えた当時の町並みが残されています。



野崎島の集落跡

世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つ。旧野首教会や神官屋敷跡がある野崎集落跡や舟森集落跡、潜伏キリシタンゆかりの沖ノ神嶋神社などがあります。

つたえるけん 小値賀町



小値賀の自然や歴史、地元の人々の優しさとアーティストの感性が交わり、小値賀の魅力が発信されています

今月のつたえるひと 木寺 智美さん

神奈川県出身。東京で就職後、2012年に小値賀に移住。おぢかアイランドツーリズムの職員として観光客受入業務に幅広く携わる一方で、2019年から町民有志による文化団体「布袋座二〇一九」の座長としても活動中。

芸術活動を通して 小値賀の魅力の世界に発信

11年前に自然と関わる仕事に就きたく、東京から小値賀に移住しました。自然の美しさや歴史ある町並みはもちろんです。みんなが助け合いながら家族のように暮らし、島外からの人も受け入れてくれる、深くてあたたかいところが小値賀の魅力です。

「布袋座二〇一九」は、小値賀町の文化、芸術振興を目的に2019年に設立した団体で、現会員は11名です。名前は、明治時代に建てられ、昭和40年代に取り壊されるまで、歌舞伎や演劇、サーカスなど、町民にさまざまな文化を提供した800名収容の大型劇場「布袋座」にちなんでいます。



アーティスト イン アイランド@小値賀

長や院生による町民対象のワークショップなども開催することができました。これからも国内外からさまざまなアーティストを招き、ゆくゆくは小値賀で生まれた作品を展示する「小値賀展」を海外で開催し、世界に小値賀の魅力を発信するのが目標です。

よって毎回素晴らしい作品が生まれています。2025年の国民文化祭ではアーティストインアイランドの拡大版を予定しており、オランダと小値賀の交流を県内のいろんな市町に広げ、アートを通して人が行き交うようになればいいなと思っています。

現在の活動の中心は、県の事業の一環で2019年より開催している「アーティストインアイランド@小値賀」の企画・運営です。以前から小値賀と交流のあったオランダの出版社「スタジオザフューチャー」の協力の元、さまざまなジャンルのアーティストを招き、島に滞在する中で感じたことなどを作品に生かしていただくもので、アーティストの感性と島の歴史や文化、町民との交流に

多彩な作品に出会える 小値賀町民文化祭

毎年11月に開催されている町民参加型の文化祭。昨年に引き続き「布袋座二〇一九」も出展し、アーティストインアイランドで作成した作品を展示します。



日時:11月18日(土)、19日(日)(予定)
場所:小値賀町離島開発総合センター(小値賀町苗吹郷)
問合せ:小値賀町文化連盟 ☎0959-56-3111

島での体験を作品に! 小値賀島×東京藝術大学プロジェクト

7月31日~8月6日、東京藝術大学美術学部の大学院生たちが小値賀に滞在。「小値賀の人と暮らし」をテーマに制作した作品を展示します。



日時:12月中旬(予定)
場所:葉湯&サウナのofuroba(小値賀町苗吹郷)
問合せ:布袋座二〇一九 hoteiza2019ojika@gmail.com

小値賀町のお土産

小値賀の手ぬぐい「おぢか手ぬぐい」

野崎島の王位石や旧野首教会、地ノ神島神社の鳥居など、小値賀の歴史ある建造物を描いた手ぬぐい。あずき色とそら色の2種。

問合せ/おぢかアイランドツーリズム ☎0959-56-2646



表紙のはなし 『五両ダキ』

小値賀で「ダキ」とは「崖」のことで、火山の噴火口のうちの一つが、海水に浸食されてできたものといわれています。上から眺めても圧巻ですが、干潮時に岩場を通って砂浜に行くと、さらに崖の迫りに圧倒されます。